

サイコパスと道徳／慣習の区別

信原幸弘 (Yukihiro Nobuhara)

東京大学・大学院総合文化研究科

人に危害を加えてはいけないというような道徳的な規範と食事の作法のような社会的な慣習のあいだに厳密な区別があるのかどうかについては、肯定と否定の両方の見解があるが、日常的には一応、このふたつは区別されていると言えよう。その証拠に、慣習なら、それを破ることが許可された場合、かなりの人が破ってもよいと思うが、道徳の場合は、破ることを許可されても、ほとんどの人がやはり破ってはいけないと思う。人を殴ってもよいと言われたからといって、殴ってよいと思う人はほとんどいない。

ところが、サイコパスは道徳と慣習の違いをきちんと把握できていない。かれらは、慣習でも、道徳と同じように、破ることを許可されても、やはり破ってはいけないと思う。道徳と慣習のどちらも破ってよいと思うのではなく、どちらも破ってはいけないと思うのである。しかし、そうであるにもかかわらず、サイコパスは道徳に反する行動をする傾向が強い。サイコパスにおいては、道徳と慣習の理解、およびそれらに関する動機状態はどうなっているのだろうか。道徳と慣習の区別という観点からサイコパスの心理状態の理解を試みるとともに、その成果を用いて、道徳と慣習の区別が結局どこにあるのかということについても考察を行う。